

シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015 参加報告

技術第2班 鈴木 大介

1. はじめに

現代のスポーツやレジャーは、用具・設備・施設のハードウェアを抜きにして考えられないほどに、その依存度が高くなっている。また、このハードウェアの高性能化や安全性と快適性の向上には使用者である人間のダイナミクスが考慮されなければならない。本シンポジウムは、これらの問題に関連したスポーツ工学とヒューマンダイナミクスの研究を報告し合い、研究者が交流できる場と機会を提供するために開催されている。

2. 日程

平成 27 年 10 月 30 日(金)～11 月 1 日(日)

3. 会場

立命館大学びわこ・くさつキャンパス
エポックホール/R101 教室/R102 教室
/K309 教室/K310 教室

4. 研修内容

<1 日目>

「筋骨格特性」
「生体情報の計測と応用」
「センサ情報の活用」
「反発・発射・衝撃・緩衝」
「走動作」
「身体特性解析・トレーニング」

<2 日目>

「モデル化と分析」
「映像分析・推定・構造」
「身体負荷」
「自転車」
「運動の制御と戦略」

特別講演：関西発の世界基準

<3 日目>

「ゴルフスイングほか」
「筋特性の計測と動作への影響」
「センサ情報によるロコモーション解析」
「可視化された生体内情報のヘルス&スポーツサイエンス応用」
特別講演：ヒト・モノ・コトの計測
と感性モデリング
：筋骨格シミュレーション
の理論と応用

発表セッション：

「ゴルフスイングほか」

発表題目：

剣道の素振りを含めた下肢の動作解析

5. おわりに

今回、私自身が研究している内容を発表させていただいた。さまざまな意見をいただき大変勉強になった。ほかのセッションにも参加して新たな研究方法など参考にできるものもありこれからの研究に活かしていけると考えている。また、大学構内のスポーツ環境や施設を見学させていただき、立命館大学の環境の素晴らしさを実感した。特に、高地トレーニングと同じ環境を作れる部屋があり、そこでの練習をすることができる女子駅伝チームの強さを感じた。また、私が研究で使用しているモーションキャプチャについてもカメラを 16 台、フォープレートで 15 枚使用し、常に動作を確認できるように大きなモニターを用意されていた。

このシンポジウムで学んだことをこれからの支援センター業務ならびに研究にいかしていきたい。